

平成18年10月10日

〒590-0400
京都大学原子炉実験所
助手・小出裕章様

〒177-0041 4-25
蒼天社政治情報センター
代表・石川鐵也



公開質問状

私たちは、「教育」と「エネルギー」の両問題を文明国家の二大要素と位置付けて活動している市民団体です。

その一環として、“2006年「もんじゅ」公開討論会 in 関西”を傍聴しましたが、貴殿発言、その過激な内容には驚かされました。

よって、疑義ある点について下記質問させていただきます。原子力専門家としての責任ある発言と認識しておりますので、一週間以内での文書回答、宜しくお願い申し上げます（本月28日、余呉町での説明会に参加されるのであればその面談時でも結構です）。

— 記 —

1. 国策に異を唱える場合、代替案の提示は当然であります。必要性を認めた国策である以上、政府（責任者）は代替案なき反対論を取り上げる訳にはいきません。
その理由については、貴殿が責任ある立場にあるとき、国民から「では、どのようにして問題を解決するのですか」と質されれば、自ずと解することができると思えるのですが、貴殿見解は如何でしょうか？その理由と併せてご教示いただきたい。
2. 電力は企業として、利益を優先させ（故に安全にも気配り）つつ安定供給に心掛けねばなりません。配給契約数（供給量）によって設備等を充実させ、契約者の要求に応えなければならないのです。
当然のこと、不安定な電源を主力電源にする訳にはいきません。そういった実情を無視した提案ならば、学者の空論として一蹴されるのは自明と言わざるを得ませんが、貴殿見解は如何でしょうか？その理由と併せてご教示いただきたい。
3. 貴殿は会場において、「東京に原発を誘致し、そこで事故が発生してもよいと思っている」旨の発言をされましたが、何故、東京で原発事故が発生してもよいと考えるのでしょうか？是非ともその理由をご教示いただきたい。
4. 私は常々、「深地層処分の安全確立については、北海道及び岐阜県内における調査、研究の成果を踏まなければならない。現時点において、『安全確立がなされていないので文献調査や地質調査に反対する』といった反対ありきの主張は本末転倒、無責任論以外の何物でもない」などと説いておりますが、貴殿見解は如何でしょうか？その理由と併せてご教示いただきたい。

以上